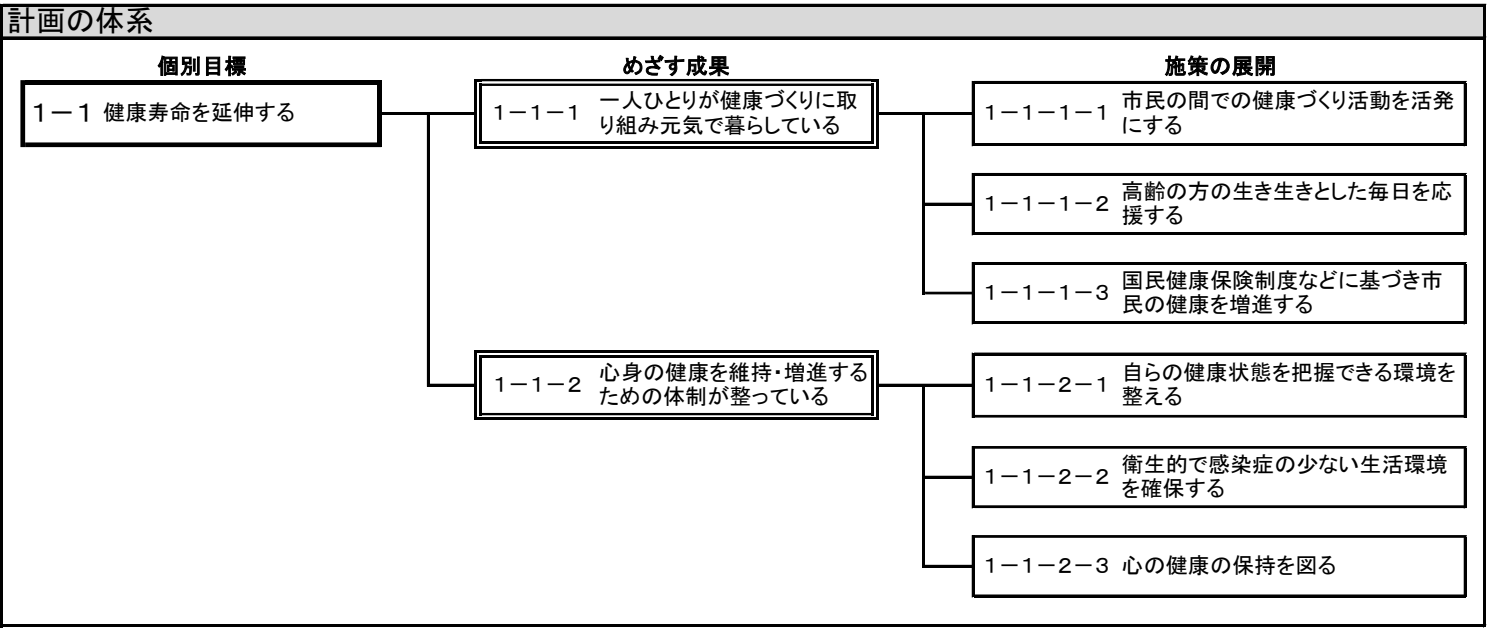


令和4年度 施策評価（二次評価）		
健康領域	人の健康	
基本目標	1	いつまでも元気でいられるまち
個別目標	1-1	健康寿命を延伸する
	1-2	いつでも必要な医療が受けられる



成果を計る主な指標			前期基本計画期間（Ｒ１～Ｒ５年度）					
			計画当初値	実績値 （Ｒ１）	実績値 （Ｒ２）	実績値 （Ｒ３）	中間目標値 （Ｒ３）	最終目標値 （Ｒ５）
■めざす成果１－１－１								
①	健康寿命（平均自立期間）と平均寿命の差	男性	１．６３歳	１．７１歳	１．７５歳	１．７２歳	差が短くなるように取り組みます	差が短くなるように取り組みます
		女性	３．５７歳	３．５６歳	３．６０歳	３．４７歳	差が短くなるように取り組みます	差が短くなるように取り組みます
②	自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合		６２．９％			６２．７％	６８．０％	７０．０％
③	高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合		５７．１％			６１．８％	６２．０％	６４．０％
④	介護予防セミナー受講者数		１，１１２人	１，３９７人	２３６人	５６２人	１，１６７人	１，１８６人
⑤	シルバー人材センター会員数		９６１人	１，００４人	９４５人	９７１人	１，０４１人	１，０８１人
■めざす成果１－１－２								
①	肺がん検診受診率		２０．２％	２４．３％	２２．５％	２５．２％	２６．２％	２９．２％
②	特定健康診査の受診率		３４．１％	３２．６％	３０．９％	３２．４％	３９％	４１％
③	肺炎等による死亡率（人口１０万人あたりの死亡者数）		１０３．４人	９６．５人	９８．８人	１１２．５人	８８．４人	８２．４人
④	自殺死亡率（人口１０万人あたりの自殺者数）		１４．５人	１４．７人	１７．１人	１６．６人	１２．８人	１１．９人

令和2年度 施策の進行管理に対する意見（令和元年度分）
めざす成果1-1-1「一人ひとりが健康づくりに取り組み元気で暮らしている」 ■めざす成果1-1-1「一人ひとりが健康づくりに取り組み元気で暮らしている」また、めざす成果8-2-2「市内で働く人が増え、生き生きと働いている」に関して、大和市は「70歳代を高齢者と言わない都市」を宣言しているが、例えば65歳で会社を定年退職した人で、もう一働きしたいと思ってハローワークに行っても特別な資格がなければ新しい仕事を見つけるのは難しい状況である。これらの年齢層が適度な仕事を得て生き生きとした日々を過ごせるよう、今後実施する市民意識調査でその実態を把握してみてはどうか。

令和3年度 施策の進行管理に対する意見（令和2年度分）
めざす成果1-1-1「一人ひとりが健康づくりに取り組み元気で暮らしている」 ■老人クラブ等の団体の廃止が地域のコミュニティの衰退につながり得ることを考えると、高齢者数の増加に反して老人クラブの団体数等が減少している状況は看過できません。この要因のひとつである会長のなり手がいないことに対してリーダー育成に取り組むとともに、情報社会の急伸にともなう高齢の方のニーズの多様化を踏まえた新たな施策の検討を行い、団体活動の維持に向けた市の積極的な支援が必要であると考えます。
めざす成果1-1-2「心身の健康を維持・増進するための体制が整っている」 ■肺がん検診等の受診率について、勤務先で受診する人が多いことに加え、雇用年齢拡大に伴う勤務先での受診者増加が見込まれるところであり、年代別に受診率を算出する等、より適切な算出方法について検討するとともに、市民のより一層の肺がん検診率の向上を図ってください。 ■「こもりびとコーディネーター」や「こころサポーター」を本人やその家族等を含め広く市民に紹介する際、その役割や意義について理解を深めるための説明を加えることにより、家族の方等を含め、実際の相談にまでつながる可能性が高まると考えます。

令和4年度 施策評価（二次評価）結果（令和元年度～3年度分）
総合計画審議会における 評価結果を記載